

古墳時代の土器

原田悠希

1 古墳時代の土器

土師器 在来の土器である弥生土器に系譜をもつ軟質の土器。700～800℃の酸化焰焼成。

主に煮炊き等に用いられた。液体の貯蔵や食器には不向き。

須恵器 古墳時代中期頃に韓半島からきた焼成技術を用いて日本で生産した硬質の土器。還元焰焼成。

主に液体の貯蔵や食器として使用。

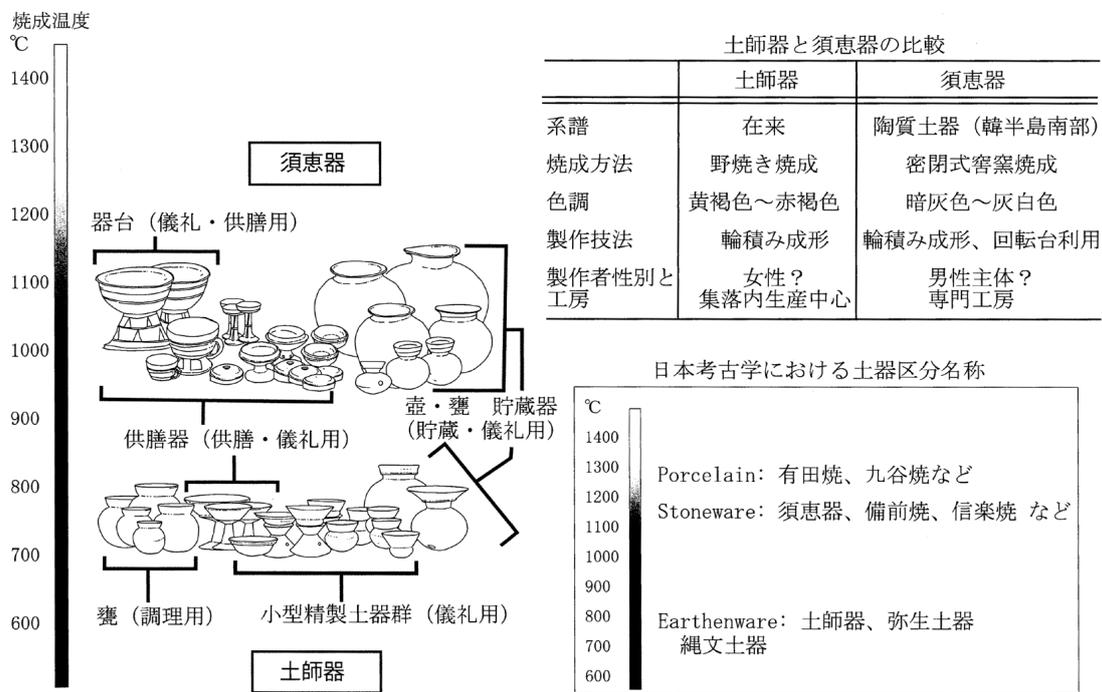


図1 土師器と須恵器の比較

(中久保辰夫 2016「古墳時代後期における土器研究の現状」『土器編年研究の現在と各時代の特質 - 須恵器生産の成立から終焉まで』考古学研究会関西例会)

2 土器の変化の方向性

土師器 精製品（小型丸底土器、器台）や器壁の薄い甕、二重口縁壺の登場

⇒器体の丸形化と製品の粗製化

⇒韓半島由来の器種の土師器化、食器類の減少＝煮沸具の割合が増加

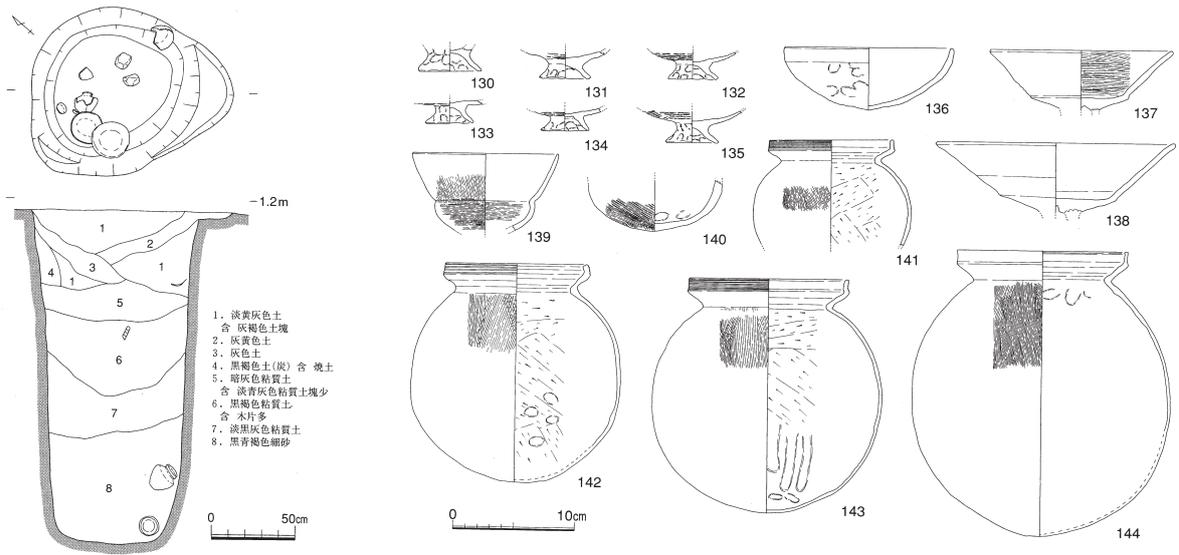
⇒金属製容器の模倣品の登場

須恵器 貯蔵具の多量生産と食器類の須恵器化

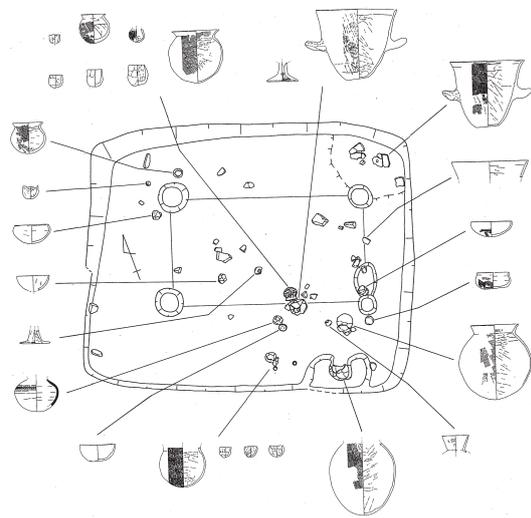
横穴式石室の普及とともに、副葬品への使用

⇒金属製容器の模倣品の登場

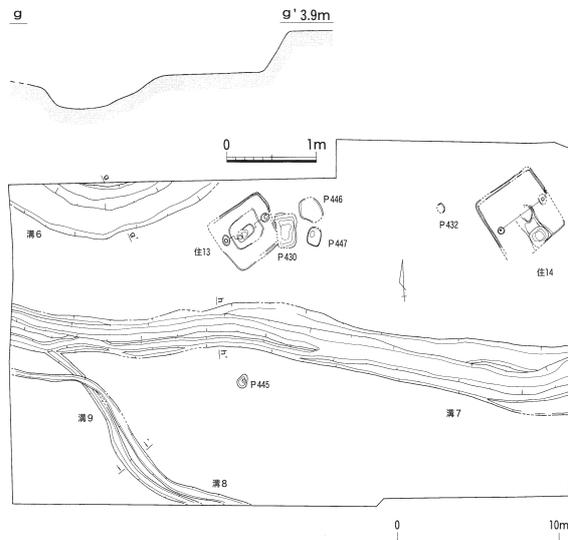
3 遺跡から出土する土器



川入・中撫川遺跡井戸5と出土土器



三手向原遺跡竪穴住居1と出土土器



津島江道遺跡溝6と出土土器

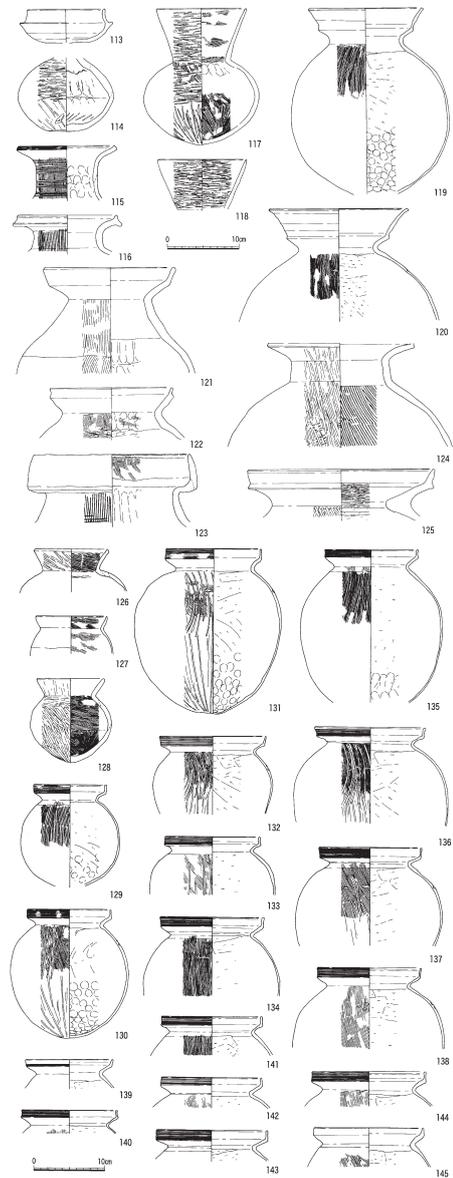
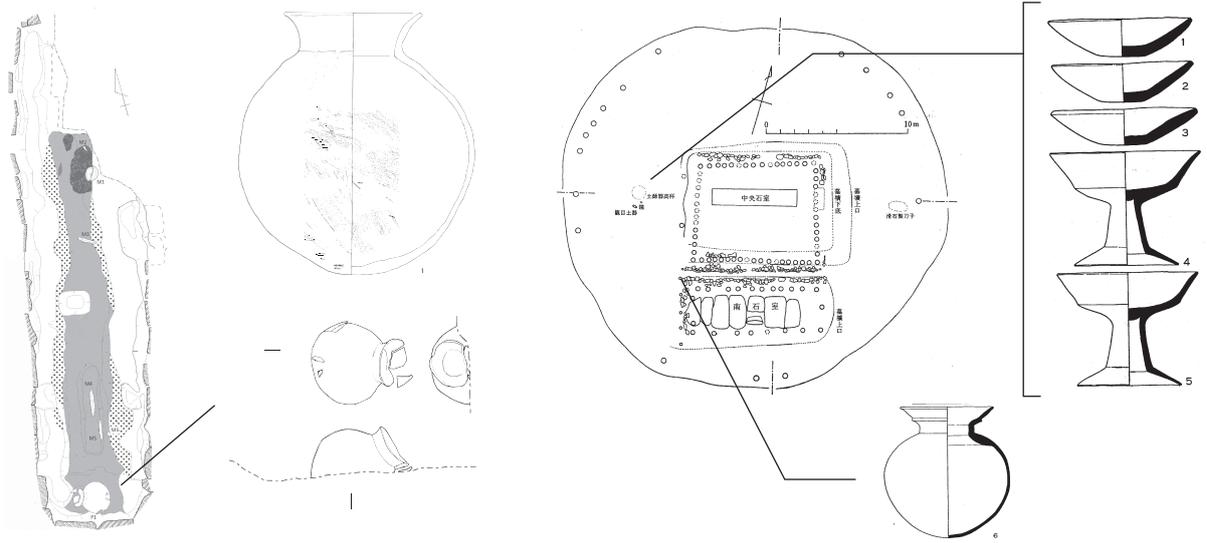
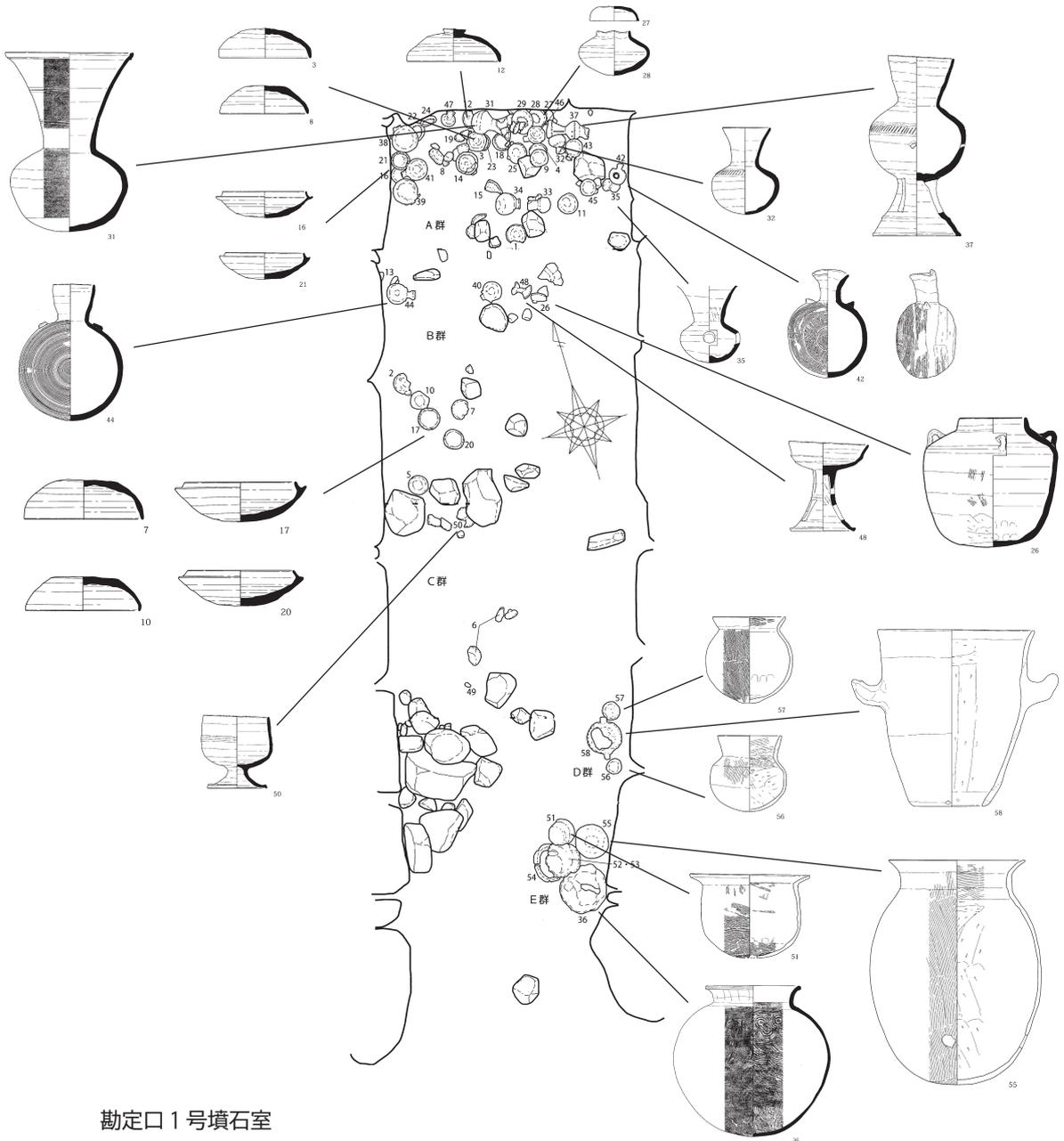


図4 集落から出土した土器



津倉古墳石室

金蔵山古墳墳頂



勘定口1号墳石室

図5 古墳から出土した土器

(光本順編 2020 『津倉古墳』岡山大学考古学研究室、西谷眞治・鎌木義昌 『金蔵山古墳』倉敷考古館)